

日本のオープンサイエンス 早急な国際対応が必要

基本方針やガイドライン策定へ

内閣府の検討会で議論活発化

欧米に比べて立ち遅れている日本のオープンサイエンスの動きだが、内閣府の国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会（座長＝有川節夫・九州大学名誉教授）の議論によって、その動きは一気に加速しそうだ。

研究論文のオープン化（オープンアクセス）、研究データのオープン化（オープンデータ）など、オープンサイエンスを進めることは世界的な流れとなっている。同じ研究を繰り返すことを避け、成果の再利用による投資効果を上げさせることも、異分野融合の促進、プロジェクト終了後に研究成果が散逸することを防ぐこと、オンラインジャーナル高騰への対抗措置、

論文・データの公開による研究不正の防止など、様々な効果をもたらすためだ。G8、OECD、GRC

(Global Research Council) については、公的資金による研究成果、データの原則公開を求めているが、既に欧米各国ではオープンアクセス

論文・データの公開による研究不正の防止など、様々な効果をもたらすためだ。G8、OECD、GRC (Global Research Council) については、公的資金による研究成果、データの原則公開を求めているが、既に欧米各国ではオープンアクセス

論文・データの公開による研究不正の防止など、様々な効果をもたらすためだ。G8、OECD、GRC (Global Research Council) については、公的資金による研究成果、データの原則公開を求めているが、既に欧米各国ではオープンアクセス

論文・データの公開による研究不正の防止など、様々な効果をもたらすためだ。G8、OECD、GRC (Global Research Council) については、公的資金による研究成果、データの原則公開を求めているが、既に欧米各国ではオープンアクセス

論文・データの公開による研究不正の防止など、様々な効果をもたらすためだ。G8、OECD、GRC (Global Research Council) については、公的資金による研究成果、データの原則公開を求めているが、既に欧米各国ではオープンアクセス

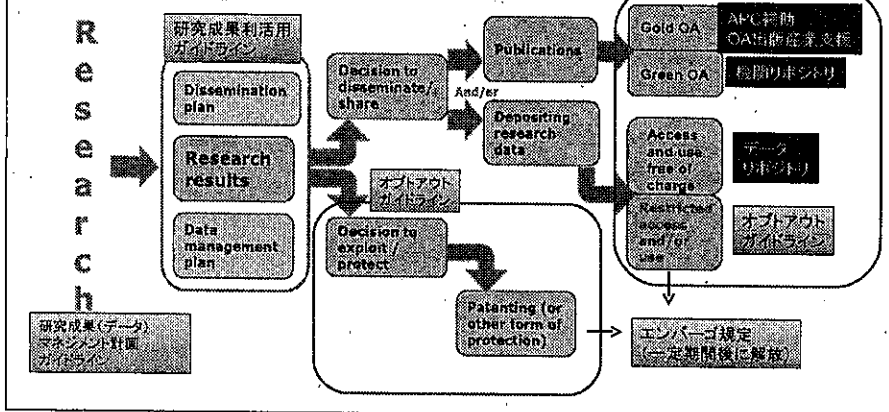
論文・データの公開による研究不正の防止など、様々な効果をもたらすためだ。G8、OECD、GRC (Global Research Council) については、公的資金による研究成果、データの原則公開を求めているが、既に欧米各国ではオープンアクセス

論文・データの公開による研究不正の防止など、様々な効果をもたらすためだ。G8、OECD、GRC (Global Research Council) については、公的資金による研究成果、データの原則公開を求めているが、既に欧米各国ではオープンアクセス

論文・データの公開による研究不正の防止など、様々な効果をもたらすためだ。G8、OECD、GRC (Global Research Council) については、公的資金による研究成果、データの原則公開を求めているが、既に欧米各国ではオープンアクセス

オープンアクセスポリシーマップ例

Graph: Open access to scientific publication and research data in the wider context of dissemination and exploitation



他の研究費についても、オセらせることができる。JSTのオープンアクセス宣言すれば、の関係者によれば、JSTのプラットフォームに載ると国立情報学研究所との役割

劃分担き文庫省が決れば、プラットフォームは早期に構築できるという。また、オープンアクセス

データを進めるため、政府・ファンディングエージェンシー・研究機関が決めるなければならないルールも既に明らかにされている。EUのホライズン2020の例では、研究成果（データ）マネジメント計画ガイドライン、研究成果利用ガイドライン、オプトアウトガイドラインを、政府・ファンディングエージェンシー・大学等の研究機関がそれぞれ策定することで、知財を守りつつ、オープン化を進め、研究成果の活用を促進するという方針が示されている。オープンサイエンスは世界の潮流であり、すでに多くの障害は解消されつつある。検討会には、早急に基本方針を示すとともに、ガイドラインのひな形を策定することが求められている。